



『斐太後風土記』によると、第 16 代仁徳天皇の 65 年、両面宿禰追討の際、武振(たけふる)熊(くまの)命が中津原をはじめとして、官道のところどころに先帝応神天皇の尊霊を祭祀した、「飛騨八幡八社」の 1 であると言われている。

古来飛騨国内における有名社で、応永年中(1394~1427)三木氏の崇敬厚く、戸田采女正による元禄検地には、1 町 9 畝 13 歩の境内除地を受けた。また、千古不伐の森として杉・桧などの古木が鬱蒼(うっそう)としていたが、第 2 次大戦後、伐採などにより皆無の状態となり、境内また縮小して旧観もなくなった。

明治維新村社に列した。

同 40 年神饌幣帛料の供進を指定され、同 42 年には区内 6 社を合併合祀し、また大正 6 年には神社会計指定を受けた。

官制廃止後、単立神社となる。

特に当社拝殿は、益田地方における久津八幡宮・尾崎の明白神社とともに、三大拝殿の 1 に数えられる壮麗な建築である。

<引用文献> 土田吉左衛門編集『飛騨の神社』1,289 頁 飛騨神職会発行 昭和 63 年



0001\_建物



0002\_建物



0003\_建物



0004\_建物



0005\_建物



0006\_建物



0007\_建物



0008\_建物



0009\_建物



0010\_建物



0011\_建物



0012\_建物



0013\_建物



0014\_建物



0015\_建物



0016\_建物



0017\_建物



0018\_建物



0019\_建物



0020\_建物



0021\_建物



0022\_建物



0023\_建物



0024\_建物



0025\_建物



0026\_建物



0027\_建物



0028\_建物



0029\_建物



0030\_建物



0031\_建物



0032\_建物



0033\_建物



0034\_建物



0035\_建物



0036\_建物



0037\_建物



0038\_建物



0039\_建物



0040\_建物



0041\_建物



0042\_建物



0043\_建物



0044\_建物



0045\_建物



0046\_建物



0047\_建物



0048\_建物



0049\_建物



0050\_建物



0051\_建物



0052\_建物



0053\_建物



0054\_建物



0055\_建物



0056\_建物



0057\_建物



0058\_建物



0059\_建物



0060\_建物



0061\_建物



0062\_建物



0063\_建物



0064\_建物



0065\_建物



0066\_建物



0067\_建物



0068\_建物



0069\_慈雲禪院



0070\_慈雲禪院



0071\_慈雲禪院



0072\_慈雲禪院



0073\_慈雲禪院



0074\_慈雲禪院



0075\_慈雲禪院



0076\_遠景



0077\_遠景



0078\_遠景



0079\_遠景



0080\_遠景



0081\_遠景



0082\_遠景



0083\_遠景



0084\_遠景



0085\_遠景



0086\_遠景



0087\_遠景



0088\_遠景



0089\_遠景



0090\_遠景



0091\_遠景